



1か月間の留学を終えて 中学生留学体験記

三好市では、今年度より国際的視野にたった人材の育成を目的に海外留学制度を創設し、貴重な異文化体験の機会を提供しています。対象者は市内中学校に在籍し、保護者が三好市内に居住している生徒です。今回、市内の中学生11名が短期留学を希望し、作文、面接などにより3名の生徒を選考しました。

生徒3名は、10月27日から11月23日までの約1か月間、姉妹都市アメリカ合衆国オレゴン州ザ・ダルズ市で留学を経験。ホストファミリーやザ・ダルズ市の人たちと心の通う充実した日々を過ごしたようです。市では、平成29年度も同事業を計画しています。

今月号では、中学生から寄せられた留学体験記をご紹介します。

大統領選挙の投票が ドライブスルーでできるなんて

池田中学校 2年 谷和沙

大統領選挙当日、私はダルズにある選挙施設を訪ねました。そこで、日本の選挙と違う点を2つ見つけました。

1つ目は、投票スタイルについてです。なんとドライブスルーの投票所があるのです。私は、選挙は堅苦しいものだと思っていました。しかし、気軽に投票できるこの制度は、とても画期的だなと思いました。2つ目は選挙応援についてです。私は、トランプさんとヒラリーさんの応援事務所を訪問しました。どちらの事務所でも、候補者の顔や名前を書いた缶バッジやステッカーを販売していました。ダルズでは、ヒラリーさんを支持している方が多かったため、住宅街にはヒラリーと書いた看板が立っていました。トランプさんの応援事務所にはユニークなステッカーも貼られていました。

このような選挙のスタイルで、みんなが関わりやすい選挙の運営で通っていました。私がこの留学生活で学んだことは、英語力はもちろんですが、自分で物事をやりとげる「自立心」やさまざまな人との触れ合いに必要な「コミュニケーション力」、そして自分の意思をしっかりと持ち、発言し行動に移す力が向上したと思います。家では靴は脱ぐことといった、日本では当たり前だったことも、アメリカでは全く通用しませんでした。しかし、その違いに触れることにより洗濯や起床など、自分のことは自分でする習慣が身につきました。また、文化や言語習慣の違いはありますが、どこの国でも、人の優しさや思いやりの心は共通していると強く感じました。言葉の壁はともないうちでも、その分相手の優しさや気遣いがしっかりと伝わってきました。

1か月というとても短い間ではありましたが、他国の文化に触れ、知らなかった多くのことを学ぶことができ、アメリカでの留学生活は私にとってとても有意義なものになりました。これからは、この経験を生かした生活を送っていきたいと思います。

挙をつくっているんだと思いましたが、また、高校生でも選挙に高い関心を持っている事にも驚きました。

池田中学校 3年 馬宮春

今、私は14才ですが、高校で出会った同じ年代の人に、「働いていないのか？」と驚かれました。アメリカでは14才から普通にバイトしているようで、その分、皆自分の行動に責任を持つているのだと思いました。アメリカといえば、「自由の国」というイメージを持っていましたが、若いうちから各個人で責任を持っているからこそ「自由」なのかなと思います。

日本では、成人するまでは親が責任を持っていますが、アメリカでは14才から仕事をしたり、個人として尊重され、親はそのサポートをしています。どちらの国も選挙権は18才からなのに、それぞれの違いをたくさん見て、体験することができました。

今回、アメリカに滞在させていただいた1か月で、毎日新しいことの連続で、ここでは伝えきれないほどの思い出と貴重な経験ができました。それを今後の自分に十分に生かせるように努力していきます。

文化や言語が違ってても 思いやりの心は相手に通じる

池田中学校 3年 福田和奏

昨年の交流親善団に引き続き、2度目の訪問。現地のザ・ダルズハイスクールには、3週間通学しました。アメリカの学校は、日本のように一人一人への指導や手厚いフォローは少なく、何事においても自主性が重んじられていました。文化の違いなので、日本の学校とどちらが良いとは言えませんが、アメリカの学校のように自由を主張するためには、必ず責任が問われるのだと思いました。たくさんの生徒と交流することもできて、とても嬉しかったです。親しくなった人たちは、日本の文化、家族や友達のことについて話をして、有意義な時間を過ごすことができました。

高校生のホストシスター、キアナは、7月に交流親善団として、三好市に滞在していました。三好市ではホストファミリーが親切にしてくれて、とても嬉しかったと話していました。文化や言語が違ってても、思いやりの心は相手に通じるのだと思いました。ビーチや

自分の意思をしっかり持ち 発言し行動に移す力が向上

池田中学校 3年 馬宮春

ハロウィンやサマータイムの終了、アメリカ大統領選挙など、とても新鮮な経験を経ることができました。その中でも、私が一番心に残っているのは、ザ・ダルズハイスクールに通ったことです。

ザ・ダルズハイスクールは、日本とは全く違う授業の受け方や種類、時間割、そして校舎のつくり、服装など日本ではありえないようなことばかりで、驚きの連続でした。例えば、それぞれのクラスにたくさんいる生徒がいるということです。ザ・ダルズハイスクールは、どの教科でも四種類ほどのクラスがあり、大学のように自分に合った授業を選択することができず、そのような仕組みは、日本にはなく、珍しいので一日一日の学校生活に胸を高鳴らせました。また、生徒が自分の車を運転して通学していることにも驚きました。アメリカでは、16歳から運転免許を取ることができそうです。私も、高校生のホ

水族館、ショッピングモールに連れて行ってくれたり、友達を家に呼んで、クッキー作りやゲームを企画してくれたりしました。私のことを「家族の一員だ」と言ってくれてくれたことが、とても嬉しかったです。この経験を忘れずに、キアナやホストファミリーからももらった親切を、今度は私がいろいろな人に返していきたいです。その他インディアンのお祭りのパウワウなど、アメリカならではの行事にも参加し、楽しむとともに、昔からアメリカの人々が大切にしてきている伝統を学ぶことができました。私は、この1か月間を通して、文化や言語、住む国が違ってても、互いの良いところを受け入れ合うことが大切なのだと学びました。受け入れ認め合うことによって、思いやりの心が生まれるのだと思いました。そして、そのもとななるのが人と人との出会いだと思えました。今回の短期留学でも、多くの人との出会いがありました。その出会いを大切に、周りの人やこれから出会う人に、親切に思いやりをもって接していくことが、私が果たすべき責任だと思っています。

- ①留学したザ・ダルズハイスクール
- ②社会科の授業の様子
- ③ホストファミリーとコロンビア川の川辺にて
- ④グラフィックデザインの授業の様子
- ⑤インディアンのまつりに参加
- ⑥帰国後の短期留学報告会



① ② ③ ④ ⑤ ⑥